

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立村岡小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒910-0035

福井県勝山市郡町2丁目9-1

E-mail murokosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 105名 女子 107名 合計 212名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「人とつながり、自然とつながり、未来のふるさとを大切に行動できる ESD の推進」を活動テーマとして、ESD を、地域の一員として、地域を大切に思い行動できる力と捉えた。

ESD の実践を通し、活動の中で生まれる協働や対話によって学びを深め、地域で自分ができることを実行・発信しようとする態度の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、福祉教育、ふるさと教育を柱に①地域の人との交流に係わる活動②地域環境保全に係わる活動、③地域の福祉的環境に係わる活動、④地域の歴史の継承に係わる活動を行った。

① 地域の自然や人との交流に係わる活動

1年生は、学校の周りに出かけ、様々な動植物と触れ合う活動を行った。生き物との触れ合いを通して、季節を感じたり、命の尊さに気づいたりすることができた。

2年生では、春と秋に地域の町探検を行ったり、地域の施設を訪問したりして、自分の住む町について調べた。訪問先で地域の人々に、インタビューすることで、自分たちの生活がたくさんの人に支えられていることを実感することができた。

② 地域の環境保全に係わる活動

5年生では、地域に広がっている水田について取り上げ、課題別グループに分かれ、課題追求を行った。また、地域の農業を守りつぐために、JAの方や地域の方から米作りについて学び、米作りの現状や課題について考えた。

6年生では、地元のNPO団体「小原エコプロジェクト」の皆さんや福井県自然保護センター職員の方々のご指導のもと、校下にある希少植物のミチノクフクジュソウの保全活動を行った。開花観察会や下草刈り、看板づくりを行い、この活動は次の学年へと継承した。

③ 地域の福祉的環境に係わる活動

4年生では、社会福祉協議会の方から、福祉についての考え方を学んだり、福祉体験をしたりした。視覚障害の方から話を聞いたり、障害者スポーツ体験をしたりすることで、いろいろな立場から考える態度を育てることができた。

また、ボランティアクラブ「むろこっ子クラブ」の11名が、保育園訪問、高齢者施設訪問、高齢者と共にスティックリング体験を行った。

④ 地域の歴史の継承に係わる学習

3年生では、本校裏手にある村岡山の歴史や生き物について調べた。村岡山に登って、学習課題を見つけたり、地域の方から村岡山の歴史について学んだりした。また、市内の歴史探遊館「まほろば」へ出かけ、学芸員の方から、村岡山と平泉寺の関わりについても学んだ。



1年生 生き物探し



2年生 町探検



3年生 村岡山探検



4年生 障害者スポーツ体験



5年生 田植え体験



6年生 ミチノクフクジュソウ
開花観察会



むろこっ子クラブ
スティックリング体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 農林水産省ホームページ
- ・ 四年国語（上）「手と心で読む」
- ・ 昆虫図鑑、植物図鑑

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「人とつながり、自然とつながり、未来のふるさとを大切に行動できる ESD の推進」を活動テーマとして、環境教育、福祉教育、ふるさと教育を軸に、年間計画を立て ESD カレンダーを作成している。ESD カレンダーでは、どの時期にどのような活動を行うかを、教科横断的に立案している。

また、ESD を核とした問題解決型の学習を行い、ESD に限らず、他教科においても、単元を通してのめあてや、毎時間のめあてを明らかにして活動を行っている。活動の中で、協働、対話の場面を設け、それにより学びが深められるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度末に現在の担当学年が、1年間を振り返り、ESD カレンダーの見直しを行ったり、改善したりしていく。それをもとに、新年度の担当学年が、再度年間計画を立て、継続的に活動に取り組んでいる。

また、毎年11月に行われる町の文化祭で、取り組んできた学習内容を発信し、校内や地域の方々へ取り組みを知らせる。さらに、前後の学年間で合同授業やミニ発表会を行うことで、活動を引き継ぎ、さらに発展させていく取り組みを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度初めに立てる学校教育計画の中で、ESD についても計画されている。学校全体のテーマ、各学年のテーマと具体的な取り組みについて計画を立てている。年度末には、学校評価として、計画通りに活動を行えたかを、全教員が一人一人振り返り、次年度へと生かしている。

学校評価により、積極的に自然と触れあったり、環境保全について考えたりする時間を設けることができたことが分かった。今後の課題としては、他学年（特に前後の学年）で活動内容を伝え合う時間を、さらに設けていくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

5年生では、米作り体験を通して、地域の方やJAの方、奥越農林総合事務所の方々から教えていただいたこと、体験を通して感じたこと考えたこと、米や米作りについてグループで調べたこと等について、地域の文化祭で発表した。また、壁新聞の展示、作った米で炊いた炊き込みご飯の販売も行った。そのため、大勢の地域の方に取り組みの内容を知ってもらうことができた。これらのことを通して、児童は、地域の方に自分たちの取り組みを伝えられたという達成感と同時に、自分たちの取り組みが地域の方に受け止めてもらえたという満足感を得ることができたようだ。

ミチノクフクジュソウ保全活動では、6年生から活動を引き継ぎ、地域のミチノクフクジュソウ群生地の下草刈りと、ミチノクフクジュソウ保全を呼びかける看板の作製を行った。看板は、春、群生地に設置する予定である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

福祉教育では、社会福祉協議会の方々とは連携して学級の児童の思いや実態に合った具体的な取り組みを決め、外部の方との調整をしていただいた。福祉ボランティア団体(視覚障害者支援)の方々、目の不自由な地域の方からお話をお聞きしたり、点字について学習したりすることができた。また、福井しあわせ元気大会に関連して、「卓球バレー」「フライングディスク」といった障害者スポーツ協会の方々に来ていただき、直接お話を聞きし、一緒にスポーツ体験をすることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

本校の位置する勝山市では、すべての小中学校において、各学校にESD担当者がおり、校内のESD推進に携わっている。年に3回程度、ESD担当者会議があり、各学校のESD担当者が一同に集まる。そして、各学校での取り組みの現状や課題などを報告し合い、得た情報を自校の取り組みへと生かしている。市内の小中学校でネットワークを形成することで、ESDに関する様々な情報を得ることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

地域の方々との関わりや交流を通して、児童は自分達が地域の一員であることを感じる事ができた。

1年生で行った昔遊び体験では、地域の方々の協力のもと、様々な昔遊びを体験することができた。児童たちは、ただ遊びを体験するだけでなく、地域の方々の温かさや地域の方々に関わる喜びを感じたようであった。このような交流を行うことで、地域に住む人たちに親しみを持ち、自ら関わろうとする態度を育てることができると考える。

3年生では、学校の北にある村岡山についての学習を行った。市のジオパークまちづくり課の方から、村岡山のでき方を聞いたり、市の施設見学に出かけたりした。また、町内の高齢者の方々との交流会に参加し、昔の道具についてお話を頂いたり、石臼を引く体験をしたりした。交流を通して、みんな同じ村岡町の一員だと感じている児童もいた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、環境教育、福祉教育、ふるさと教育を柱に活動を行っていく。

1年生では、学校の周辺に生息する動植物の観察、身近な自然を利用した遊びを体験する。

2年生では、自分達が住んでいる町の自然、社会、公共施設などについて調べたり、体験したりする。

3年生では、自分の住む地域に関心を持ち、地理的・歴史的なことを調べる。地域の方と交流し、地域の一員としての自覚を持たせたい。

4年生では、福祉教育を核とし、家庭・地域の方々との交流を深める。国際理解教育にも取り組み、多様な価値観についても学ぶ予定である。

5年生では、米づくり体験（田植え、稲の観察、稲刈り、脱穀等）と、ミチノクフクジュソウ保全活動を通して、地域の自然や環境を守るために自分にできることを考えていく。

6年生では、小原 Eco プロジェクトや県の自然保護センターの方々と、ミチノクフクジュソウの保全作業や開花記録、観察会を行う。